

# めだかの学校だより

平成30年5月1日  
第100号  
学舎：周智郡森町一宮  
「小國神社大宝殿」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL:0539-62-6691

## 実行委員長訓話

第一〇〇回 委員長 石野省三

「クラッカー！100回記念」

「めだかの学校」も歴史を語る年齢になってきた。1993年9月第1週の金曜日、台風余波で山は大荒れ、奥山高原の食事処「つみくさ」へ、いいとしのメダカたちが群れたのがスタートだった。どのメダカたちも誘われるままに半信半疑で、何が始まるのか？生徒メダカという意識はほとんど無いままに集まっていたように思うが、どのメダカも何か言いたそうな雰囲気伝わってきた。好きな気持ちで群れていたようだった。

あれから25年、100回目の開校になる。(平成5年〜平成30年)開校当時のメダカは少なくなり、その頃の様子や意気込みは徐々に薄れてきつつある中、「建学のこころ」が時々唱和させられ、その精神が今日まで生き続けてきた。ここに正にめだかの歴史が出来上がったのでは！現役メダカたちは、この歴史のなかで泳ぎまわってきたから、各々それなり

の想いが根付いてきているのは心強いね。

さて、自分史に立ち返ってみよう。開校当時は教育現場から教育委員会事務局へ出向して3年目の時だった。静岡から引佐に移り住んでいた「つみくさ」の榎原幸雄支配人がひよっこり事務所へ現れ、初対面にもかかわらず友達会話が始まった。何を話したのか内容はほとんど覚えていない。ただ、「めだかの学校」とやらを開校するという話題は記憶にある。よく分からないが何を始めるのかと言う程度に聞いていた。実は「引佐人形劇まつり」が毎年11月に開催されているが、これを手がけたのが伊藤藤茂男メダカと榎原幸雄メダカだった。教育委員会も協力していた関係から繋がりが出来ていったのだろうと今は思う。そこに石野メダカが誕生したわけ！「つみくさ」での開校は回数を重ねるたびにメダカの数が増えていった。交流も盛んになり、閉校後の喋りが11時、12時と宿泊する者までいた。石野メダカも自分と人のいいところ見つけが楽しくもあり、ワクワク感を醸し出すことありでここまで続いたのだろう。何と言っても、言いだしっぺの4人組(榎

原・平山・伊藤・武井各氏の強烈な個性と人間性から、かけ離れたアイデアが生まれたんだろうね。特に事務局として25年間を牽引してきた榎原幸雄メダカとブレキキ役でサポートしてきた奥さんのご尽力は誰もが認めるところだろうね。榎原メダカの一刻さといひ加減さ何となく惚れ込んだメダカ生も多いのでは！あまり深く考えないで泳ぐメダカだからこそ長く群がっていられんだろうね。

歴史の1ページは今回の大同窓会でガッツリと飾りたいね。実行委員長を仰せつかりましたが、10周年の委員長落第だったからかな？前向きに捉えろと、人任せにするところがいいのかも！メダカ生は技と知恵を兼ね備えているから、各メダカが泳ぎまわり主役になるように仕向けなさいと言うことかな、と勝手に判断し全メダカ生が実行委員でお願いしますよ。

メダカ生の皆さん「大同窓会」は「大交流会」ですよ。メダカ生全員が先生で、生徒で実行委員ですよ。歴史の1ページを飾り、更に親交を深めよう。



## めだかの学校伝言板

—第100回めだかの学校を開校するので出席しなさい—

実行委員長／石野省三

副実行委員長／松本芳廣 (会計)

〃／村松達雄

事務局長／榎原幸雄

食統括長／榎原淑友 副食統括長／渡辺三ツ子

※お手伝いできる人は早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「小國神社大宝殿」

TEL:0538-89-7302

<登校日の当日連絡>榎原幸雄 080・1612・9130

(開校案内状の番号は間違いです)

開校日／平成30年6月2日(土) 13:00~3日(日) 11:30  
受付／大島たまよ・水島加寿代・大場敬子・大橋町代  
今回のテーマ：《めだかの学校開校100回記念大同窓会》  
<時間割>

●6月2日(土)

13:00~ 受付開始・小國神社本殿正式参拝

14:00~ 記念授業 (3分間リレー授業)

18:00~ 大交流会 (地場産品と地酒の豪華給食)

21:00~ 夜なべ

●6月3日(日)

06:00~ 起床

09:00~ 森町とおき名所めぐり

11:30~ お帰りの会 (下校)

## めだかの動き

# 泳ぎ回るめだかたち

### ■森の中に神秘的な謎の石仏群

磐田市の北部(旧豊岡村)に標高2660m程の大変見晴らしの良い獅子ヶ鼻公園がある。公園一帯の連なる山はその昔、山岳信仰で修験者が修業をした厳しい岩山が連なっている。その山の道の無いような険しい中腹に、昨年の秋「磐田の森 謎の石仏群」と大きな見出しで新聞に報道された。発見した人は同公園のボランティアガイドの2名である。今回、「獅子ヶ鼻公園内12ヶ所88体石仏めぐり」ということで地元の豊岡東交流センターが見学ツアーを企画してくれた。早速申し込みをして三月、ツアーに参加することになり当日公園下の広場に参加者34名が集った。

出発前にガイドさんからの説明がある。「岩場が多く危険で崩れやすい箇所があるので、足場を良く確認して歩いて欲しい、岩が落ちて来るとも有るので充分注意をして下さい。」との説明。2班に分けて出発するが参加者は岩場を想像して緊張をしている。広場からはそんなに遠くない所のA地点に1番石仏があった。30cm程の釈迦如来坐像である。その場所は廃寺跡との事。次への移動は登山道を外れ道の無い所を木を分け入って約10分程度獣道を進む。次のB地点で目を見張りアツと驚く。大きな岩を屋根として立像3体、坐像8体が神々しく並んで安置されていた。それぞれの石仏の顔は皆平穏で久しぶりの人を見て喜んでるようにも感じた。そして次々の地点を同じように回リ全部で12ヶ所の88体を見る事が出来た。その

歩き方にもよるが約2時間余りで無事一巡することが出来た。

いつ頃、誰が、何のために置いたのかは定かでは無いというが、その時代の背景を思いめぐらせ、先人達の石仏に掛けた夢を思うと何か神々しく、ロマンを感じたツアーでした。(田村進治メダカ)

### ■「全国まちづくり交流会 in 玉名」開催のお知らせ

今年も全国まちづくり交流会が開催されます。5年前静岡岡原森町で開催され、その後与論町や北海道蘭越町で開催されたこの交流会も今回で16回目を数え、今年も熊本県での開催です。多くの方の参加をお待ちしています。

《日時》2018年7月27日(金)～29日(日) 《日程》27日18時～前夜祭「鍋海岸」28日大会横島町公民館

《参加申し込み》事務局：堀内真也0968・57・3483 熊本県玉名市岱明町高島2950-1 bandasgray.plala.or.jp

《問い合わせ》吉田富明：090・2396・5880

なお、交流会に先立ち13時～熊本県菊池市「白金の森」でかがり火支局長会議も開催されます。

### ■「初倉」よごと「一度はおいで」

十数年間私は一時間半をかけて島田からめだかの学校に登校している。島田といっても私の住む「初倉」は昭和36年、島田と合併する前は「榛原郡初倉村」であって、私も皆さんと同じ遠州めだかだった。全国的に大きな川が文化の境目となっている所が多いが「初倉」も旧島田市街とは、大井川を挟んで独自の伝統文化がある。若干、私よりも歳の多い人の中には、川む

こう、「川こつち」などと言って未だに旧島田市街とは対抗意識をもっている。

ところで、私の地域には「初倉コミュニティ委員会」というものがある。昨年からは地域民の交流、つながりの場をつくる本部に席を置いている。市政とのパイプ役である自治会組織とは両輪関係にある。かつて青年団に勢いがあつた頃、夜な夜なたまり場に集っては諸先輩から、社会勉強と称して悪巧みの仕方も教育させられた。そんな活動に近いところがある。中には当時から60数年も続く伝統行事もあるからなかなか頑張っている。何か理由をつけてやめてしまうことはいつでもできる。大事な

のは住んでいる自分達の地域のことをどれ程好きかだ。

春になってまた、新年度がスタートした。はたして今年はどうな「コミュニティ委員会」になるのやら？楽しみみのひとつである。

お近くにお出掛けの際には是非お立ち寄り下さい。「初倉よごと」一度はおいで！(池谷俊裕メダカ)

### ■和太鼓集団「志多ら」全国ツアー「息吹」の遠州公演

和太鼓集団「志多ら」の、6回目の全国ツアー「息吹」の東海地域での最終公演が、磐田市竜洋なぎの木会館いさだホールで、7月8日(日)午後4時30分開演で行われる。

『志多ら』は平成元年、活動拠点を求め東栄町東園目の廃校に1ターンのして以来30年になる。演奏活動は基より居住する三遠南信の地域おこしをと、NPO法人「てほへ」を設立。廃校となった小学校を指定管理者として受託し、奥三河交流体験学校「のき山学校」を運営。地域の情報も発信している。6月のめだかの学校「大同窓会」の交流会で太鼓を聴かせてくれると

のことです。公演の入場料はおとな4000円、高校生以下3000円。

元氣な若者たちの力強い演奏を、ぜひ鑑賞ください。チケットの申し込み、問い合わせは0536・76・1708志多らへ。(伊藤静男・公子メダカ)

### 『人・ひと・トト』だより

●静岡市清水区の花井孝メダカ。無人ATMで、10分以上携帯電話で通話しながら操作している高齢女性。もしかして、と声をかけ、「振り込め詐欺被害を未然に防いだ」と、清水署から感謝状、だつて。

●浜松市天竜区の本島慎一郎メダカ。仲間たちと活動しているNPO法人「元氣里山」が、静岡県社会福祉協議会が、「優れた地域福祉活動に取り組むNPO法人やボランティア団体をたたえる賞」で、奨励賞をうける、と。

●浜松市の城内実メダカ。日本とドイツの友好関係強化に貢献したとして「ドイツ連邦共和国功労勲章大功労十字賞」を受賞。外務省職員時代、駐独日本大使館で外交官を務めるなど、衆議院議員の今も、超党派の日独友好議員連盟の事務局長を務める。

●森町の村松達雄メダカ。役場の4月の異動で、産業課長から、新設された定住推進課の課長に。少子高齢化の時代のマツタなしの人口減少対策、難題に取り組むことに。

●駿東郡小山町の溝口久メダカ。小山町での仕事・暮らしは早や4年。企画した建物や公園の6件がこの3月に完成。まだプロジェクト途中の案件もあり、オリンピックごろまでは小山町にいい所、案内します、と。

●森町の天野智加志メダカ。ライフワークの舞楽。小國神社は4月14日、15日。天宮神社は4月7日、8日。便りが届く頃

は終っているが、一度は見に来てね、だって。昨年詠んだ俳句「花冷やゆるりゆるりと納骨利舞心」(天宮神社舞楽)、「門桜舞ふ行道や舞樂衆」(小國神社舞樂披露)。

●めだかの開校100回記念大同窓会「案内の返事第1号は、豊橋市の森田泰子元メダカ。なつかしかったア。出席できないけど、出席したつもりで会費払います。振込み教えて!」の電話。嬉しいね!。そして付録が:「案内状の榊原さんの携帯番号間違えてる!」。エッ?。見ると後ろの4桁が間違えてる。すぐに先方に謝まりの電話を入れる。参ったね。森田さんには感謝!

●東栄町の森下幸子元メダカ。お懐かしいお便りが届き感謝。「めだかの便り」を拜見、少しも揺るぎない「めだか」の姿勢に背筋が延びる思い、だって。娘たちが生活の場を東京に移し、周囲は高齢者ばかり。漬物や煮物を届けたり、直売所に出荷したり、「木の駅」の責任者で間伐材を搬出して運営費を作ったりと、忙しく、あと少し「森」に関わって行こうと思ってる、と。凄いなア、幸ちゃんは。

●浜松市引佐町の世田新造元メダカから、「開校100回記念大同窓会の交流会で手品やりますヨ、先日、東京の国際劇場で手品やってきた!」と、「第99回めだか便り」を送ったら、私の携帯に即返事の電話。いや、嬉しかった。世田さんは郵便局職員をやりながら手品を。SBS学苑浜松校で長く講師をやっているが、定年退職後の今はプロで大活躍。

●静岡市の水野忠義メダカ。『100才をメザス!シルバメダカ』。1月29日に傘寿を迎え、年を取り、歳を喰い、50才も若返り。30才になったのか?ビックリだ!。めだかの学校100回を6月に迎え、先を越されたが、負けないゾ!。シルバメダカも100才までガンバルゾ!。だっ

て。78才のバラメダカ、この4月から地元の『めだせ100才、ひがし健康くらぶ』の代表者をやる羽目に、だって。

●浜松市の中村やす代メダカ。わらび座ミュージカル「KINJIRO」を観劇。正直いって二宮金次郎がミュージカル?何だかしくりしらないと思っただが、観ているうちにどんどん引き込まれて「へえ、金次郎ってすごい!」。チラシの『本当は面白い二宮金次郎』は本当に面白かった。再来年のNHK大河ドラマに推薦します、だって。

●浜松市の池田悦子メダカ。春は店でも桜ごはんの季節。もち米を少し混ぜて、食紅を入れ、桜葉を練切り、桜花の塩漬も少し細かくして、その塩分で味付け。花見のお弁当に。ピンクがグーですね、だって。お花見だったので、来年のお楽しみに!。

●横浜市の山根圭二メダカ。めだかの学校伝言頂戴いたしました。アリガトさんです。第99回に成るんですネエ。テーマ「開校100回に向けて」スゴイ事ですネエ。開校」と同時に入学した生徒は、「1回に1学年ずつ進級する生徒は」100年生になる訳だ。(うん!違います?)と、毎回のようにおとほけしながら、便りの感想や自らのこともメッセージしてくれま

す。今回はハガキを、前回はお金を寄付してくれました。感謝です。

●浜松市の北島多江子メダカ。『パステル(NAGOMI)アート』合同展「こころ和む時間」を3月1日〜4日まで、ギャラリ「それからで開催。インスタラクター仲間や受講生のこころ和む時間に描いた作品約100点展示。体験も。指で描くパステル和アートの柔らかく優しい色合いの作品展。開講10周年になる、だって。

●浜松市の水村春江メダカ。俳句愛好会青竹会編著『青竹合同句集』に、「春寒し友

に永訣の花手向く」「草餅を食めばなつかし祖母の膝」など数句が掲載されている。アレ、新人の山下智之メダカの作品も。めだかの学校には藤枝市の小嶋良之メダカら多くの俳人がいる。

#### 《新人生紹介》

●浜松市の山下智之メダカ。古文書の解読や万葉集、歴史、短歌、俳句づくりなどをたしなむ。ノルディック、サーフィン、フットサルなどスポーツも。加茂真淵翁遺徳顕彰会会長も。推薦人は大谷洋介メダカ。

●掛川市の永野貴嗣メダカ。得意学科は政治、経済、特に政治に関心がある、と。趣味は武道と読書とスポーツ観戦。4歳。推薦は今村純子メダカ。

●再入校は、浜松市の別所慶則メダカ。針灸師。イタタの人は、私のところへどうぞ!と。99回めだかの便りをいただいたら、またみんなに会いたくなかった、だって。

#### 《訃報》

●駿東郡清水町の石川美知子さんが、3月12日に亡くなりました。享年75歳。めだかの学校第1回の時の先生。NPO法人日本食茶の会理事長で、県内茶葉を利用した『食茶』の普及活動に取り組み。SBSラジオのパーソナリティーも務めていました。ご冥福をお祈りいたします。

●磐田市の斉藤昭メダカ。3月15日午後8時24分心不全で逝去いたしました。享年81歳。斉藤さんは、長い間受付の後見人をして下さり、また、職員会議のメンバーとして活躍してくれました。ありがと!ご冥福をお祈りいたします。

××× ×××  
もつともつと載せたかったのですが、紙面の都合で今回はこれまで。

#### 《めだか春秋》

静岡の地域づくり団体「おもしろ人立めだかの学校」との関わりは平成9年からなので、思えば20年。当時、私は岐阜県の福岡町で夢倶楽部という地域づくり団体を地元の有志で起こし、ビジョンづくりをはじめとし、地域イベントやネットワークづくりで明け暮れていました。当時お世話になっていた創造屋の武井先生から話を聞いていた事もあり、岐阜県で開かれた第1回地域づくり団体全国大会の折に参加名簿でめだかの学校を見つけ、会場で榊原さんと上島さん呼び出したのが初対面でした。その時は自己紹介と活動の紹介をお互いにして別れたのですが、次の週に榊原さんから交流のお誘いの訪問をいただきました。そんなことがきっかけとなり私はめだかの生徒となり、静岡へ通うことになり、先生2回と校長を1回を経験しました。

今ではなかなか学校には参加できませんが、めだかがきっかけとなり、静岡との行き来が始まり、特産品交流や、交流先との共同での商品企画から商品も生まれて、今でも販売しています。

地元商品では伝統野菜の「はじめコシウ(唐辛子)」を使った商品開発と商品メディアとして中津川から情報発信を続けています。特産品の販売の経験から、中津川市商業振興課とともに中津川特産品等振興協会を立ち上げ、代表として、中津川の特産品の販売を通じてマーケティングと新商品のブラッシュアップに努めています。

※お知らせ  
文字数は18文字×37行以内。名前・タイトル(見出し)含む。行数以内で写真も可。第101回のめだか春秋は、鈴木偉代メダカ。お楽しみに。



# トピックス

## ■しなばた さくらコンサート 【最終回】

4月8日(日)浜松市天竜区春野町長蔵寺の尾上美智子メダカ。自宅の尾上オーブングラデンで今年も開催。

特製お花見弁当と今回は浜松シティウィルハーモニのメンバー12名の管楽器アンサンブル 4グループでの演奏だった。急変する気候、道中は大半が葉桜。快晴だが寒気と強風を背に150名位の観衆が集った。

山中の盆地に住まいする尾上メダカが、賑わいを創造しようと、山野草の庭園を広げ、山崩れの斜面には、桜・もみじなど植林を重ねている。その意気に惹かれた人々が応援団?の輪が広がり、春・秋、食事会とコンサートを開催、毎回100名を遥かに超える参加者となっている。そうなんです、これは尾上さん個人のイベントなんです。コンサートとしては今回で十周年とか。「最終回」となっているが、今後はどんな展開を披露してくれるのか?楽しみだなア。  
(伊藤英雄メダカ)

## ■事務局だより

若葉の薫る季節となりました。農家の皆さんは草との戦い大変ですね。取ったあとからあとから...でも美味しい季節でもありますね。そう新茶。お茶を飲みながら、ちよつと草もちでも頂きながら...

さて、第99回めだかの学校は、平成30年3月2日に開かれました。校長は早川幸恵、教頭は古橋利雄、用務員は小栗華。用務員

が遅れているため、教頭が進行と鐘の2役。さすがベテラン教頭やりますなア。新入生は山下智之、永野貴嗣、再入学の別所慶則。久しぶり登校の小嶋良之と4人の自己紹介。お待ち兼ねの給食は、マグロとゴボウとキユウリなどののり巻き寿司。新タマネギと、和えものと...エーとなんだっけ?デザートは洪川の方に作ってもらった草モチ。今回も美味しかった。早川校長の訓話、「森町に来たのはワクワクする古民家に会ったこと。農業の世界に飛び込んだのもワクワクしちゃうから。」ご主人が「自然焙煎の珈琲をやる」と言うことから、地区120年の自宅で珈琲屋を始めて毎日が「ワクワク」と語る。事務局からは次の授業のこともあり、「たくさんの出欠ハガキありがとう」と簡単に。

1時間目の授業は言い出しつべの榊原幸雄先生。「人の出会いは面白い・それがめだかの学校へとつながっていく」と。黒板に4人の言い出しつべ。平山豊、伊藤茂男、武井紀夫の絡み合いを書き、出会いの基は『人形劇』。平成元年の「いなさ人形劇まつり」から、平成5年9月の「第1回めだかの学校」への話。あとはいつもの如く、あっちへとびこつちへとび、あげくは99回までの「めだかの便り」の束をみせて、『便りを



見るとよく分かる』。結果、記念誌を作ることに。まいった、また肝なことを言い忘れた。反省!。2時間目は開校100回記念大同窓会実行委員長石野省三先生。「開校100回記念の進め方について」。5回の実行委員会話し合われた資料を基に説明。案内状の内容もほぼ決まり、全員が実行委員の意識で盛り上げよう!と話す。

私語飲食全禁止の次回三役発表は、100回は三役がないので、26期(30年9月1日)31年8月31日まで、第101回の三役の発表に。校長は草地博昭、教頭喜瀬川はつ枝、用務員永野貴嗣。今回も校長・用務員は若手を登用、いやア楽しみです。

「めだかの学校100回記念」の実行委員会では、3月27日に学舎に集まって、案内状の発送作業をする。260通ほどを発送。早い人は翌日の28日にはお手元に。まずは第一段階は済ませる。建学25年、拘りのあった人は700人は下らないだろう。住所がわからなかったり、関わりが少なかった人、亡くなられた人もいて、260通ほどに絞り込む。朝日新聞の4月15日付に掲載されたので、連絡があり次第、即発送することになっている。4月27日に申し込みを締め切ったので、5月上旬には最終チェックと役割分担など内容を詰める。※注意 案内状の事務局榊原幸雄の携帯番号が間違っています。使用しないで下さいね。正しくは080・1612・9130です。

## ■第26期の受付を始めます。

第26期は、平成30年9月1日から平成31年8月31日までです。6月2日より申し込みを受け付けます。9月7日の開校日までに入学金1000円を添えて申し込

み手続きを済ませてください。継続生も毎年度手続きが必要です。手続きがなされない生徒は、名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。入学希望者がいましたらご連絡ください。申込書と資料を送ります。希望者には、めだかの学校記念誌、定価2000円(郵送料込み)を送ります。

## ■開校100回号は遅れないように頑張りました。

いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、今回お世話をかけた村松達雄メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木正士メダカ、いつもまとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送のお手伝いの榊原明美さん、ありがとうございます。

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、30年8月1日予定。締切りは、7月15日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙かFAXで待っています。メールの方は、[「mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp」](mailto:mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp)。間瀬亮太090・5009・0986です。(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX 同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

